

## なぜ学校の大規模修繕が必要なのか

学校施設では築 20～30 年を過ぎると外壁の劣化が進みやすいと言われています。今年、虹の原は開校して23年目(平成14年4月開校)を迎えました。その間、外壁の経年劣化のほか、猛暑や集中豪雨などの異常気象は深刻さを増し、徐々に劣化速度も進行しており、外壁のクラック(ひび割れ)が目立つようになりました。外壁のクラック(ひび割れ)が進行すると、落下事故などのリスクが高まります。加えて、外壁は、防水・断熱・耐震など、建物の基本機能を支える重要な要素であり、劣化が進むとなると雨漏りや室内温度の不安定化を招きます。現に、雨漏りも複数箇所している状況です。

そのような状況に際し、事務室の方々が、県教委と予算交渉を粘り強く進めてきた結果、工事の予算が付きましたので、子どもたちや教職員の安心・安全を守り、快適な学習環境を維持するための大規模修繕(外壁改修工事と屋上防水工事)の適切なタイミングは「今」と判断しました。これにより、外観の美しさや清潔感は、虹の原のイメージにも良い影響を与え、保護者や地域住民の皆さまにも安心感と、学校への信頼向上にもつながっていきたいと考えております。

今後は、通学や授業中も子どもたちが校内・外を行き来するため、仮設足場や資材の管理、作業エリアの隔離など徹底した安全対策を求めています。授業や行事等への影響を最小限にするため、騒音や振動の発生時間、工事動線の配慮など双方で事前にスケジュールを確認しながら計画的に進めていきます。保護者と学校との連携を図るため、工事期間中の注意事項などは『tetoru』等で事前に周知を丁寧に行います。

すべての工事完了は、おおむね12月頃までを予定しています。子どもたちにも、今日の始業式(2学期)で話をしました。何卒、皆さま方のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



8月31日現在



9月1日 現在

『令和7年度 学校経営方針』で、今年度の重点取組事項の一つに、「⑨保護者の信頼に応える学校事務の運営」を掲げ、校舎老朽化に伴う外壁及び教育環境の改善への取り組みを推進することにしています。

「聞く力」、「創る力」、「繋がる力」を大切にして魅力ある虹の原の教育を展開する

- 「R7年度 学校経営方針」でめざす！ -